

教職員の ICT 活用指導力を高めるメディア教育研究会の取組（２）

～第 45 回全日本教育工学研究協議会全国大会（島根大会）をめざして～

松島貴紀（雲南市立三刀屋中学校 島根県メディア教育研究会）

片寄泰史（浜田市立旭中学校 島根県メディア教育研究会）

概要：本稿は昨年度、JAET 全国大会和歌山大会において行った、島根県メディア教育研究会としての続く取組の成果発表である。同研究会は、幼及び公立小・中学校を含めて構成する組織であり JAET 加盟の団体である。また、その構成員は島根県教育研究会の一専門部であるメディア教育部の事務局員も兼ね、本県の教育の情報化の推進を目的に事業等を実施している。特に平成 28 年度以降、来年 10 月 18、19 日に本県にて開催する第 45 回 JAET 全国大会島根大会を見据え、年次的に本県教職員の ICT 活用指導力の向上を目指し、様々な活動に取り組んできた。ここでは、これまでの改善策等を振り返って課題等を整理し、今後の展開について考察する。

キーワード：校種を超えた連携・企業連携（チーム島根）、ICT を活用した授業づくり自主研修会

1 はじめに

平成 31 年度に本県で全日本教育工学研究協議会全国大会（以下、全国大会という。）が開催予定であり、開催に向けての機運が高まりつつある。しかし、文部科学省の調査結果によれば、本県の教職員の ICT 活用指導力は向上しつつも全国と比較すると未だ下位に位置し、自治体によって ICT 機器の整備状況にも差があるという現状がある。

島根県メディア教育研究会（以下、県メディア研という。）は、以前より本県の教育の情報化の推進に寄与することを目的に事業を実施してきた。今回、この全国大会開催を本県の教職員の ICT 活用指導力を向上させる絶好の機会と捉え、より実効性のある事業を実施することで大会開催への機運をさらに高め、教職員の ICT 活用指導力向上へつなげたいと考えた。

そのために、平成 27 年度より従来の事業を見直し、より実効性のある事業へと改善を図り、特に 28 年度からは、全国大会に向け弾力的な予算執行をしたり「ICT を活用した授業づくり自主研修会」を定期的で開催したりしてきている。本稿では、その改善策を示すとともにこれまでの総括を行い、今後の展開を考察する。

2 研究の方法

- （１）事業内容の改善
- （２）全国大会を見据えた、公開授業会場の支部及び企業と連携した研修会等の実施
- （３）実践を行う教職員の裾野拡げや更なる深化をめざす ICT 自主研修会の開催

3 研究の実際

（１）事業内容の改善

本県には、国公立小・中学校の教員が所属して教育研究を行う「島根県教育研究会」（以下、県教研という。）があり、県メディア研は、その県教研組織の専門部の一つであるメディア教育部の事務局員を中心に構成している。このメディア教育部は、県内各支部から理事を選出しており、このネットワークを最大限有効に活かすことで、県内全域に対して、より効果的な事業を実施することができる。

しかし、従来から各支部の活動に対する補助は行っていたが効果的であったとは言い難かった。そこで、29 年度より事業の見直しとそれに伴う予算の組換えを行い、更に補助額を増やした。併せて、各支部での事業（研修）についての内容やそれに係る講師を県メディア研としてコーディネートする研修要請事業を新設した。

29年度は3支部からの依頼があり、うち2支部については、研修内容のコーディネート及び予算補助も行ったことから、より質の高い事業(研修)内容を実施することが実現できた。また、今年度から全国大会への参加補助をすることとし、次年度の本県での大会開催を意識した教職員の積極的な大会参加に寄与することができた。

(H29 具体的な研修内容)

- 県教研メディア教育部安来支部（8月）
内容：主体的な学びに導く情報活用能力の育成
講師：京都教育大学附属桃山小学校 木村明憲教諭
- 県教研メディア教育部浜田支部（8月）
内容：タブレット端末の活用
講師：鳥取県岩美町立岩美中学校 岩崎有朋教諭

(2) 全国大会を見据えた、公開授業会場の支部及び企業と連携した研修会等の実施

次年度、全国大会の際に授業公開を行う雲南市において、県メディア研が雲南市メディア教育部と共催で研修会を開催した（連続3回目の開催）。全国的に活躍している実践者やNHK、企業の方々を講師として招聘し、充実した内容の研修会を開催した（7/31〔火〕）（表1）。当日は雲南市の教職員を中心に、様々な校種から約80名の参加があった。（写真1，2）。

また、この研修会は、企業にも協賛してもらい、ワークショップを開いてもらうと共に企業

(表1) 県メディア教育研修会（雲南市メディア教育研修会）日程（メニュー）

		※受付8:30~9:00		9:00		9:30		~11:00		11:30		12:30		14:00		14:30		16:00		
3	3	A	1	「授業が楽しくなる！ 普段使いのタブレット活用！」 丸亀市立郡家小学校 増井康弘先生 120分(31人)		A		2	ボーカロイドによる 音楽体験 ヤマハ様 60分(23人)		A		3	「授業が楽しくなる！ 普段使いのタブレット活用！」 丸亀市立郡家小学校 増井康弘先生 120分(25人)		3	3	F	F	
3	3	B	1	NHKfor schoolを授業で生かす ポイント NHK宇治橋様 120分(20人)		B		2	デジタル教科書 ワークショップ 東京書籍 様 60分(33人)		B		3	NHKfor schoolを授業で生かす ポイント NHK宇治橋様 120分(21人)		3	3	F	F	
2	1	C		1	スクラッチによる ロボット操作 TFCメディアラボ長谷川様 90分(10人)		C		2	校務支援ソフト体験 スズキ教育ソフト様 60分(14人)		C		3	ARコンテンツ作成 ワークショップ 東京書籍様 90分(11人)		1	1	F	F
1	2	D		1	ペットワークショップ For Our Kids 渡辺様 90分(10人)		D		1	各種プログラミング体験 ワークショップ ルビープログラミング少年団 高尾様 90分(14人)		D		3			2	2	F	F
		12		F		F		企業展示		12		F		F		F		F		
		12		F		F		2		F		12		F		F		F		

写真1 デジタル教科書ワークショップ



写真2 「ペット」ワークショップ



展示も行うことで、参加者に様々な最新の機器等に触れてもらう機会としている（写真3）。この企業と連携しての研修は、研修会恒例のものとなっており、参加者が最新のICT機器に直接触れたり、ワークショップで体験してもらったりすることで、意識が高まることを目的として

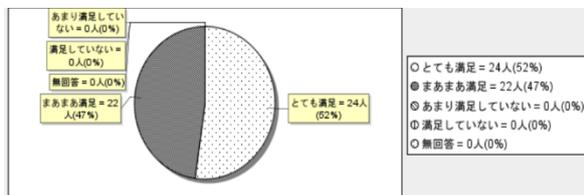
いる。なお、今年度は県内外より 17 社の企業に参加いただいた。

写真 3 各企業展示ブース紹介の様子

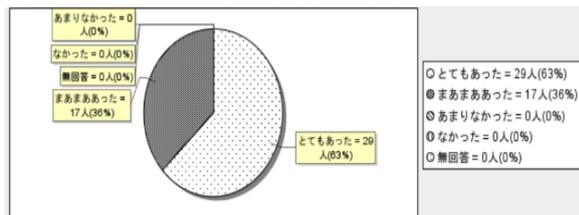


研修会を終えて実施した参加者へのアンケート結果をみると、例年肯定的なものが多く、2 学期以降の教育実践に活かそうなものが見つかるよい機会を提供することができている。(グラフ 1～3 ※29 年度研修会後のアンケート結果)

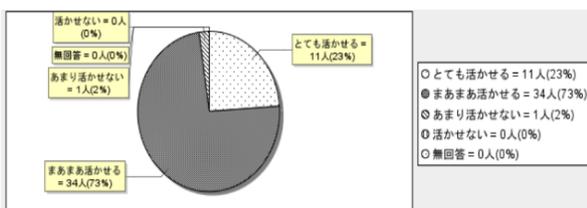
1 本日の研修会はいかがでしたか？



2 本日の研修会で、新しい発見がありましたか？



3 本日の研修会を今後の教育実践に活かしますか？



(3) ICT を活用した授業づくり自主研修会の実施

全国大会の開催に向け、教育実践に ICT を効果的に活用する教職員の裾野拡げを目的に、平成 28 年度より月 1 回土曜日に自主研修会を企画実施することとした(年度初め、年度末は除く)。昨年度 (29 年度) の研修内容は、次の表 2 に示

した通りである。2 年間の取組を通じて、県内をおおむね網羅する形で開催することができた。

(表 2)

回	開催日時	主な研修内容	講師・発表者	参加人数	会場
1	6/24(土) 13:30～16:00	①この自主研修会について(趣旨説明等) ②グループワーク ③企業等の取組や紹介	県メ研 若槻会長 片寄副会長 事務局員 SOA/リユージョシズ 榎部さん 鳥根模範教育振興 大和さん	20人	鳥根模範教育センター
2	9/20(土) 14:00～16:30	①実物投影機やタブレット端末の活用実演～授業での活用にスポットを当てて～ ②プログラミング学習体験(主に算数の授業におけるプログラミング学習)	県メ研事務局 青山指導主任 高見教諭 松江市役所産業経済部 日野野乃香 教諭 まつた産業支援センター 牧野文昭 さん 本田智和 さん	20人	鳥根模範教育センター
3	10/21(土) 13:30～16:00	①NHK教育放送企画検討会議 参加報告 ②フラッシュミニ講座 ③プログラミング教育向け教材「PETS(ペツ)」等の紹介	雲南市立三刀屋中学校 日野野乃香 教諭 アエル 様 県メ研 岩田事務局長	15人	雲南市立木次小学校
4	11/10(金) 13:00～16:30	☆邑智小学校授業研究会 ①取組説明 ②授業公開 1年算数「3つのかずのけいさん」 4年理科「物の体積と密度」 ③研究協議・指導助言	[指導講師] 美郷町教育委員会 野口麻哉 指導主任 県メ研 片寄副会長	25人	美郷町立邑智小学校
5	1/20(土) 13:30～16:00	①「NHKティーチャーズ・ライブラリー」の紹介と活用例 ②第43回全日本教育工学研究協議会全国(和歌山)大会 発表報告 ③スモールビーを利用した小・中・高をつなぐプログラミング教育 ～小・中・高の連携を中心として～ ④教職員のICT活用指導力を高めるメディア教育研究会の取組 ～第45回全日本教育工学研究協議会全国大会鳥根大会をめぐって～ ⑤事務局長の紹介コーナー	県メ研事務局 瀬崎教諭 高見教諭 片寄副会長 松島教諭 岩田事務局長	15人	松江市立城北小学校
6	2/16(金) 10:00～12:00	☆持ち帰りタブレットがもたらす新しい学びのカタチ 地域創生プロジェクト成果発表会 ①成果概要 ②ビデオ解説 ③講演 「タブレット端末の可能性とアクティブラーニング」	益田市教育委員会 中塚 指導主任 益田市立区見小学校 木村良介 校長先生 小松原啓一 教諭 東京学芸大学 森本康彦 教授	50人	益田市市民学習センター

さて、この取組を2年続けてきたが、昨年度末の事務局会での協議を受け、今年度は少しターゲットを変えることにした。昨年度までの研修会の位置づけは「裾野広げ」であったが、ある程度の効果が上がったことから、今年度は全国大会に向けた「コアメンバーの獲得」をコンセプトとして取り組むことにした。去る6月に今年度1回目の自主研修会を開催したが、小・中・高・行政(学校事務)・企業等のそれぞれの実践を確かめ合う機会となった(写真4)。全国大会の成功に向け、気運を高めるスタートとなった。今後も不定期ではあるが、実施していきたい。

(写真 4)



(4) その他

①県メディア研理事会での情報共有

県内の ICT を媒介としたつながりを意識して、今年 6 月にあった県メディア研理事会では、上記内容（予算執行及び事業の見直し、研修会の実施等）を確認し、それぞれの市郡においても共通理解を図った。島根県は東西 200km 以上ある横長い県ではあるが、連携を生かして来たる全国大会へと向かっていきたい。（写真 5）

（写真 5）



②全国大会向け実行委員会の組織、運営

来年の秋（10 月 18, 19 日）に本県での全国大会が開催されるが、それに向けての準備を進めるべく実行委員会を組織し、第 1 回となる実行委員会を開催した。島根大学深見俊崇准教授を実行委員長に、JAET 事務局やパナソニック教育財団、県メディア研（顧問、会長以下事務局員）、県内外の関係者や学校事務担当者等による実行委員会メンバーのもと、来年度の全国大会の準備が動き出したところである。（写真 6）

今回の川崎への全国大会参加で得た情報等をフルに生かして、次年度の全国大会を成功させるべく“チーム島根”で尽力していきたい。

（写真 6）



4 結果と考察

研究の方法「(1) 事業内容の改善」については、要請研修実施をした支部からは、「従来の予算では招聘できない講師を呼ぶことができた。」「機器操作の研修は受けたことがあったが、授業シーンの中での操作研修だと活用イメージが湧きよかった。」という感想があった。また、今年度は全国大会への参加助成にも取り組んだが、昨年度の JAET 和歌山大会時よりも多い参加者がここ川崎の地に来ている状況である。

研究の方法「(2) 全国大会を見据えた、公開授業会場の支部及び企業と連携した研修会等の実施」については、前述したように参加者の満足度が高く効果的であったと考える。中でも、前述したように今年度の研修会には授業公開地域から多くの参加者があった。本県で開催される全国大会の大会スローガンのもと、来たる全国大会の準備を進めていく上で貴重な研修の場となった。学校によっては、ICT 環境の整備等課題もまだまだあるが、子どもの将来を意識した授業づくりに心がけていきたい。

研究の方法「(3) ICT を活用した授業づくり自主研修会の実施」については、引き続きコアメンバー及びそれ以外の参加者の確保と、より参加者のニーズに合った研修内容の精選等を行っていく必要があると考える。

5 今後の課題

全国大会開催を踏まえ、本県教員の ICT 活用指導力の向上に向けて、大きく 3 つの視点で研究に取り組んできたが、今後も継続して取り組み、成果を上げていきたい。

今後は、各支部とのネットワーク及び各校種や企業、行政等との連携をさらに活かし、県下全体への波及を目指すことや、参加者のニーズに応じた自主研修会の内容の工夫をしながら、コアメンバーに限らず本県教職員の ICT 活用指導力の更なる向上を目指していきたい。

参考文献

- ・平成 28 年度 学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果（概要）（平成 29 年 3 月現在）平成 30 年 2 月 文部科学省